

## 総合問題 3 本支店会計

次の大阪商事株式会社の（Ⅰ）残高試算表、（Ⅱ）未達事項および（Ⅲ）期末修正事項に基づいて、本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。なお、解答に際して次の点に留意すること。

- （1）本支店間の売上および仕入は相殺し、内部利益は期末商品棚卸高から直接控除すること。
- （2）未達現金は現金預金に、未達商品は期末商品棚卸高および商品に含めて示すこと。
- （3）当期純利益は、貸借対照表では繰延利益剰余金に含めて示すこと。
- （4）会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日までの1年である。

### （Ⅰ）残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	278,400	343,200	支払手形	134,400	106,800
受取手形	265,200	190,800	買掛金	220,800	163,200
売掛金	220,800	138,000	貸倒引当金	7,200	3,600
繰越商品	183,600	134,400	減価償却累計額	439,200	324,000
支店	1,245,000	—	繰延内部利益	19,200	—
短期貸付金	480,000	—	本店	—	1,074,000
建物	1,380,000	1,020,000	資本金	2,400,000	—
仕入	3,835,200	468,000	利益準備金	134,400	—
本店より仕入	—	1,634,400	繰越利益剰余金	66,000	—
営業費	244,800	282,000	売上	3,024,000	2,550,000
手形売却損	21,600	10,800	支店へ売上	1,709,400	—
	8,154,600	4,221,600		8,154,600	4,221,600

### （Ⅱ）未達事項

- （1）本店から支店へ商品¥75,000を発送したが、支店に未達であった。なお、本店は支店へ商品を発送する際に、原価に25%の利益を加算している。
- （2）支店は本店負担の営業費¥25,200を支払ったが、本店に未達であった。
- （3）本店は支店へ現金¥72,000を送付したが、支店に未達であった。
- （4）支店は本店の売掛金¥34,800を回収したが、本店に未達であった。
- （5）本店は支店の買掛金¥33,600を支払ったが、支店に未達であった。

(Ⅲ) 決算整理事項

(1) 期末商品棚卸高

①本店： ¥122,400

②支店： ¥196,800（うち、本店からの仕入分¥150,000である。未達分を含まない。）

(2) 受取手形と売掛金の期末残高に対してそれぞれ3%の貸倒引当金を設定する。差額補充法によること。

(3) 建物について定額法（耐用年数30年、残存価額：ゼロ）で減価償却を行う。

(4) 短期貸付金は、本店が今年度12月1日に貸付期間1年、利率年3%の条件で貸し付けたもので、利息は元金とともに返済時に受け取ることになっている。

(5) 営業費の前払分が本店に¥43,200、未払分が支店に¥14,400がある。

(6) 支店には手数料の未収分¥21,600がある。

(解答用紙)

本支店合併損益計算書  
×1年4月1日～×2年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	( )	売上高	( )
当期商品仕入高	( )	期末商品棚卸高	( )
貸倒引当金繰入	( )	受取手数料	( )
減価償却費	( )	受取利息	( )
営業費	( )		
手形売却損	( )		
当期純( )	( )		
	( )		( )

本支店合併貸借対照表

×2年3月31日

資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	( )	支払手形	( )
受取手形	( )	買掛金	( )
売掛金	( )	( )費用	( )
貸倒引当金	( ) ( )	資本金	2,400,000
商品	( )	利益準備金	134,400
短期貸付金	( )	繰越利益剰余金	( )
( )費用	( )		
( )収益	( )		
建物	( )		
減価償却累計額	( ) ( )		
	( )		( )

【解答・解説】

本支店合併損益計算書  
×1年4月1日～×2年3月31日

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	( 298,800 )	売上高	( 5,574,000 )
当期商品仕入高	( 4,303,200 )	期末商品棚卸高	( 349,200 )
貸倒引当金繰入	( 12,600 )	受取手数料	( 21,600 )
減価償却費	( 80,000 )	受取利息	( 4,800 )
営業費	( 523,200 )		
手形売却損	( 32,400 )		
当期純(利益)	( 699,400 )		
	( 5,949,600 )		( 5,949,600 )

本支店合併貸借対照表  
×2年3月31日

資産	金額	負債・純資産	金額
現金預金	( 693,600 )	支払手形	( 241,200 )
受取手形	( 456,000 )	買掛金	( 350,400 )
売掛金	( 324,000 )	(未払)費用	( 14,400 )
貸倒引当金	( 23,400 ) ( 756,600 )	資本金	2,400,000
商品	( 349,200 )	利益準備金	134,400
短期貸付金	( 480,000 )	繰越利益剰余金	( 765,400 )
(前払)費用	( 43,200 )		
(未収)収益	( 26,400 )		
建物	(2,400,000)		
減価償却累計額	( 843,200 ) (1,556,800)		
	(3,905,800)		(3,905,800)

1. 未達事項の整理

- (1) <支店> (借) 本店より仕入 75,000 (貸) 本店 75,000  
(2) <本店> (借) 営業費 25,200 (貸) 支店 25,200  
(3) <支店> (借) 現金 72,000 (貸) 本店 72,000  
(4) <本店> (借) 支店 34,800 (貸) 売掛金 34,800  
(5) <支店> (借) 買掛金 33,600 (貸) 本店 33,600

## 2. 決算整理事項

### (1) 売上原価の計算

期首商品棚卸高： $\text{¥}183,600 + \text{¥}134,400 - \text{¥}19,200 = \text{¥}298,800$

当期商品仕入高： $\text{¥}3,835,200 + \text{¥}468,000 = \text{¥}4,303,200$

期末商品棚卸高：

内部利益（控除）： $(\text{¥}150,000 + \text{¥}75,000) \times 0.25 \div (1 + 0.25) = \text{¥}45,000$

期末商品棚卸高： $\text{¥}122,400 + \text{¥}196,800 + \text{¥}75,000 - \text{¥}45,000 = \text{¥}349,200$

### (2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 12,600 (貸) 貸倒引当金 12,600

\* (本店)  $(\text{¥}265,200 + \text{¥}220,800 - \text{¥}34,800) \times 3\% - \text{¥}7,200 = \text{¥}6,336$

(支店)  $(\text{¥}190,800 + \text{¥}138,000) \times 3\% - \text{¥}3,600 = \text{¥}6,264$

12,600

貸倒引当金： $\text{¥}7,200 + \text{¥}3,600 + \text{¥}12,600 = \text{¥}23,400$

### (3) 減価償却費の計上

(借) 減価償却費 80,000 (貸) 減価償却費累計額 80,000

\* (本店)  $\text{¥}1,380,000 \div 30 = \text{¥}46,000$

(支店)  $\text{¥}1,020,000 \div 30 = \text{¥}34,000$

¥80,000

減価償却累計額： $\text{¥}439,200 + \text{¥}324,000 + \text{¥}80,000 = \text{¥}843,200$

### (4) 収益の見越し

(借) 未収収益 4,800 (貸) 受取利息 4,800

\*  $\text{¥}480,000 \times 3\% \times 4 \div 12 = \text{¥}4,800$

### (5) 費用の繰延べ・見越し

(借) 前払費用 43,200 (貸) 営業費 43,200

営業費 14,400 未払費用 14,400

\* 営業費： $\text{¥}244,800 + \text{¥}282,000 + \text{¥}25,200 - \text{¥}43,200 + \text{¥}14,400 = \text{¥}523,200$

### (6) 収益の見越し

(借) 未収収益 21,600 (貸) 受取手数料 21,600

\* 未収収益合計： $\text{④}\text{¥}4,800 + \text{⑥}\text{¥}21,600 = \text{¥}26,400$